

# 神奈川県における古代の鉄(6)

## — 生産関連遺構・遺物の集成 —

奈良・平安時代研究プロジェクトチーム

### 1. はじめに

奈良・平安時代研究プロジェクトチームでは、2010年に行われた公開セミナー『よみがえる古代東国の鉄文化～相模・武蔵の発掘調査成果から～』をきっかけに、県内各地で出土した鉄生産に関連する遺構および遺物に注目し集成を開始した。その目的はどのような規模、施設で生産が行われていたのか、地域差があるのかを明らかにすることである。昨年度は補遺と平塚市域の集成を完成させることを優先した。その結果、神奈川県内の鉄生産に関連する遺構と平塚市域の遺物についてはひとまず集成が完了した。このため、今年度は得られたデータから分析に着手する。

なお、これまで5回に渡り『かながわの考古学』研究紀要において鉄生産に関連する遺構・遺物の集成を行ってきた。ところが分析する段階において改めて見直したところ、数量や名称等に少なからず誤りがあることが判明した。このため正誤表を作成し文末にまとめた。

### 2. 製鉄・鍛冶関連遺構

明確な製鉄遺構は、横浜市栄区に所在する上郷深田遺跡のみとなる。第16号炉では上方を小判型に掘りこみ、左右には平場を作りだしている。上部には多量の炉壁が遺存する。同類として、同遺跡の10～12号炉、17号炉が上げられ、時期は7世紀末から8世紀と報告されている。

鍛冶関連遺構は県内33遺跡において確認されている(第1図)。官衙や寺院、集落など各遺跡の性格は異なる。

### 3. 鍛冶炉の分類

ここでは神奈川県内において検出された鍛冶炉をもつ遺構を取り上げ、その属性から分類を行う。神奈川県内の鍛冶炉の集成はすでにいくつか行われている(富永 2004、平野 2006、齊藤 2010)。また、鍛冶炉の形態や構造に基づいた分類についても先行研究が存在する(安間 1995・2000、松崎 2006)。本稿の集成も基本的にこれらの成果に基づいて、2013年3月までに新たに報告された資料等を追加して作成したものである。遺存状況が良好な鍛冶炉の検討からⅠ～Ⅴ類までを設定した(第2図)。

Ⅰ類：竈をもつ堅穴遺構内にある鍛冶炉—6遺跡8遺構から8基検出。

北川貝塚 H2号住居(横浜市) 3.2m×3.2mのほぼ正方形で東に竈を持つ9～10世紀のH2号堅穴住居址の床中央にある。長径110cm、短径90cm、深さ15cmの楕円形を呈する土坑で、坑内は被熱して焼土で満たされ、鉄鍋片や鉄器、椀型滓、羽口が出土していると報告されている。

同類として六ノ域遺跡NH27号住(平塚市)、天神前第7地点1号堅穴住居址(平塚市)、上鶴間下原遺跡第3地点SI6・7・8(相模原市)、平和坂遺跡2号住居址(座間市)、岡上-4遺跡第2地点H24号住居址(川崎市)などがあり、北川貝塚と同様に鍛冶炉が床面中央に設置されるか、また竈の向かいの壁面付近

に1基ないし2基設置されている。時代は8世紀から10世紀に相当し、またⅠ類が検出される遺跡は県内全域に存在し、どちらにも偏りは見受けられない。

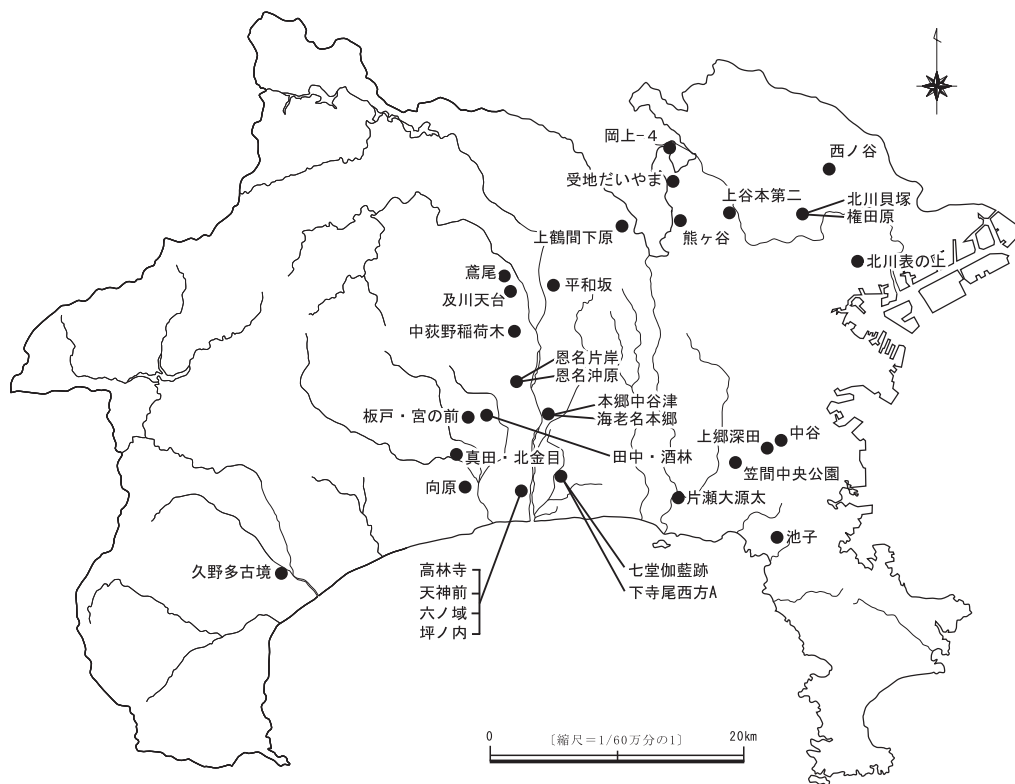
Ⅱ類：竈を持たない堅穴遺構内にある鍛冶炉－3遺跡3遺構から4基検出。

海老名本郷遺跡 第20号住居址（海老名市） 南北5.7m、東西3.0mの長方形を呈する堅穴住居内に直径110cm内外、深さ25cmの不整形の掘り方の中に粘土を充填、その中央部に上径約40cm、底径約30cm、深さ13cmの炉が1基検出された。炉の内面は灰色で飴状に融解した鉄滓様の硬化面であり、時代は11世紀代と報告されている。同類として本郷中谷津遺跡第4号住居内炉址（海老名市）、向原遺跡39号住居址（平塚市）が挙げられる。向原遺跡39号住居址は住居址とはなっているが3.0m×3.3mの不整形で、壁上を柱穴が巡っておりやや特殊な様相を呈して、2基の炉址を持つ。各遺構とも床面中央か、壁面付近に1基ないし2基設置されている様相はⅠ類と変わらない。年代は9世紀中から11世紀代とⅠ類よりやや後出しているように見受けられる。

なお、中荻野稲荷木遺跡第1号堅穴住居址（厚木市）、六ノ域遺跡NH9号住居、真田・北金目遺跡群29B区S1057（平塚市）、西ノ谷遺跡R堅穴、H2・6住（横浜市）もⅡ類となる可能性はあるが、調査区外へ続く、或いは他遺構等に切られる事により竈の存在が判然としないため、Ⅰ類の可能性もあり除外した。

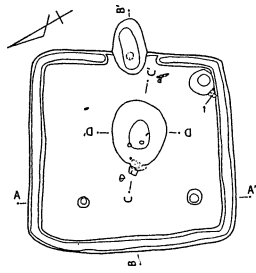
Ⅲ類：大型堅穴遺構内にある鍛冶炉－3遺跡3遺構から95基検出。

六ノ域遺跡 NH1鍛冶工房（平塚市） 東西13.0m、南北5.7m以上、深さ25cmの規模で検出されている。炉は18基確認され、そのうち16基が2基1対で東西に並列。内径はほぼ40cm。操業は9世紀中葉から後半以



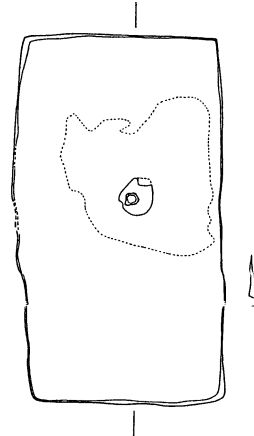
第1図 神奈川県内の製鉄・鍛冶関連遺構検出遺跡

I 類



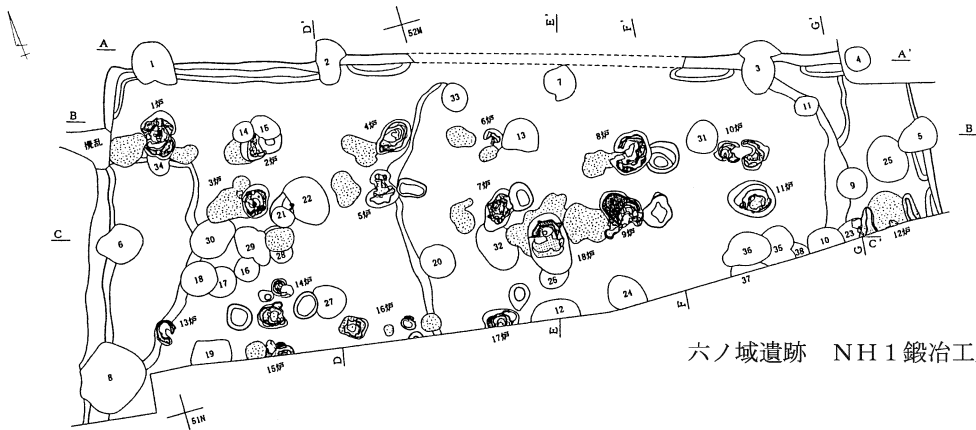
北川貝塚 H2号住居

II 類



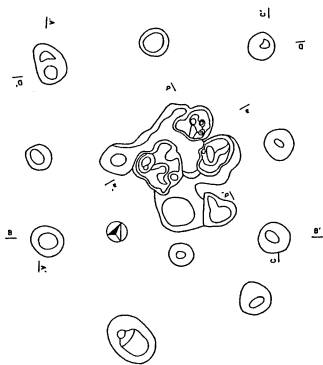
海老名本郷遺跡 第20号住居址

III 類



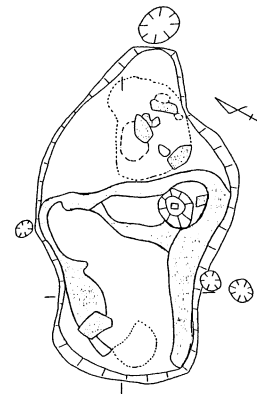
六ノ城遺跡 NH1 鍛冶工房

IV 類



及川天台遺跡 第2号鍛冶址

V 類



上谷本第二遺跡 B-1 地区1号遺構

第2図 鍛冶関連遺構分類図

降に始まったと報告されている。

同類として坪ノ内遺跡鍛冶工房（平塚市）は東西約12m以上、南北約5m以上の長屋状堅穴に2列に並んだ径40cm前後の円形鍛冶炉が70基検出され、時代は8世紀末から9世紀初頭と報告されている。六ノ域遺跡NH1鍛冶工房と同様な規模や構造を呈しているが、時期的に坪ノ内遺跡鍛冶工房が先に操業していた事がわかる。受地だいやま遺跡J区テラス遺構（横浜市）は北壁約12m、西壁約5.0m、東壁2.3mの規模で検出されている。遺構内西側には床面積約10.6㎡の円形を呈する堅穴鍛冶工房址、東側には火床遺構が7基検出されている。時期は9世紀末葉から10世紀中葉である。

IV類：周囲に柱穴列のある鍛冶炉－1遺跡1遺構から1基検出。

及川天台遺跡 第2号鍛冶址（厚木市） 本址に関わるものとして周辺に2間×2間の側柱式の建物址が検出されている。炉を中心に小鍛冶作業場の上屋と考えられる。炉址は焼土が円形に残る個所が3か所確認され、焼土の下に硬化した面が認められる。硬化面は不整円形を呈し、中央のくぼみ部分も不揃いな凹凸で、くぼみ部には薄く粘土を敷く。硬化面の規模は直径50cmと70cmの円形状が2基、他の1基は45cm×70cmである。床面にロームで形を設け、簡単に粘土を張り付けて炉としている。周囲の柱穴列の規模は、東列3.0m、西列2.8m、北列3.4m、南列3.5mを計る。柱穴は円形を呈し、直径45～65cmで深さは21～50cmである。椀型滓を含む鉄滓、羽口片が出土している。時期は不明であるが、周辺の堅穴住居址の年代から、9世紀から10世紀代の中で営まれたものと考えられている。同類として明らかな遺構は今回の集成段階では確認できていない。

V類：単独で検出される鍛冶炉－6遺跡10遺構から11基検出。

単独で検出される鍛冶炉は、大形で掘り込みや平場の構造を作り出しているものと、ほぼ掘り込みを持たずに炉底が被熱硬化しているものがある。

高林寺遺跡第7地点SX01鍛冶工房址（平塚市）は炉址が2基検出されており、大量の鉄滓、鞆の羽口、須恵器甕、瓶等がまとまって出土した。1号炉は断面U字型で平面形は舟形、2号炉は浅い台形の断面で、不整形を呈している。時期は9世紀後半と報告されている。上谷本第二遺跡B-1地区1号遺構（横浜市）、池子遺跡群No.5地点2号野鍛冶址（逗子市）も大形で掘り込みを持つ鍛冶炉である。

ほぼ掘り込みを持たずに炉底が被熱硬化しているものとして、笠間中央公園遺跡1号鍛冶遺構（横浜市）、六ノ域遺跡NH1鍛冶炉（平塚市）、西ノ谷遺跡鍛冶炉F1～F4（横浜市）、池子遺跡第5地点1号野鍛冶址（逗子市）が挙げられる。池子遺跡の1号野鍛冶址は炉床と考えられる部分から北約3.0mの位置にピット様の掘り込みが検出された。内部には多量の焼土及び炭化物と共に鉄滓が密に入っており、処理に係わる残骸と考えられている。時期は9世紀代と報告されている。V類が検出される遺跡は県内全域に存在し、遺構の時期は9世紀が中心である。

#### 4. 国府域および周辺の鍛冶関連遺物について

ここでは相模国府域および周辺出土の鍛冶関連遺物について概要を述べる。推定相模国府の範囲についてはかながわ考古学財団調査報告書242『湘南新道関連遺跡Ⅱ』の第4図を参考とした（（財）かながわ考古学財団 2009）。

鍛冶関連遺物は、坩堝・取瓶・金床石・鞆羽口・鉄滓・銅滓、工具類としては鉄鉗・鑿などが出土している（第3～6図：遺物が出土した調査地区をベタ塗り）。

金床石は六ノ域遺跡・神明久保遺跡(No. 215)から出土している。鍛造製品の製作を示唆するように堅穴建物跡からの出土が目立つ。鉄滓は精錬滓か鍛錬滓かの判断はできない。推定国府域内の遺跡の出土量が突出して多く、国府周辺域とは出土量に差がある。銅滓は神明久保遺跡で顕著な出土状況がみられるが、山王A遺跡(No. 209)、四之宮山王B遺跡(No. 213)、六ノ域遺跡などでの出土量は少なく、国府域内において偏在する。工具類については鉄鉗が大会原遺跡・六ノ域遺跡(No. 58)で出土している。鉄鉗に比べ鑿の出土量は多いが、鍛冶炉を含む遺構とセットで出土する例は少なく、周辺の遺構からの出土が多いことが特徴である。

出土遺物の分布傾向としては推定国府域内の北東側および中央から東よりで最も集中し、推定国府域周辺ではまばらに分布する状況である。遺跡および遺物量の濃淡からおおよそ3つのまとまりとして捉えることができる。

1つめは坪ノ内遺跡(No. 180)や隣接する六ノ域遺跡である。ここでは埴塙・取瓶・金床石・轆羽口・鉄滓・銅滓・鉄鉗・鑿といった遺物が出土した。

2つめは天神前遺跡(No. 204)と神明久保遺跡で、鉄滓・銅滓・轆羽口・取瓶・鑿が出土している。

3つめは高林寺遺跡(No. 192)で、鉄滓・銅滓・轆羽口・鑿が出土している。以上のまとまり全てから鍛冶関連の遺構が検出された。

推定国府域周辺に関しては、遺物が特に集中する箇所として捉えられず、出土する遺物の種類が鉄滓のみの遺跡も少なくない。しかしながら東中原E遺跡(No. 155)は鉄滓・銅滓・取瓶を出土しており、周辺の遺跡と比較して相対的に出土量が多い。その他報文のみであるが、隣接する新町遺跡(No. 192)は鉄滓と羽口が出土している。いずれも鍛冶遺構は未検出であるが、この遺跡の周辺での操業が行われていた可能性は否めない。

概ね鍛冶工房とされる遺構が検出されている地点では濃密に関連遺物が集中するが、それ以外では出土量としては少ない。鍛冶関連遺物の分布は鍛冶遺構の分布と一致しており、遺構と遺物量は比例しているといえる。

## 5. おわりに

これまで神奈川県内の鍛冶関連遺構の類型化と国府域における鍛冶関連遺物の様相について述べてきた。神奈川県全体でのまとめには至らないが、平塚市、特に国府域とその周辺についての遺構と遺物について触れ、結びとしたい。

国府域の鍛冶炉については、Ⅳ類を除くすべての類型が見られた。Ⅰ・Ⅱ類は竈の有無を除けば、通常の堅穴建物跡と変わらない規模と構造を持つ。Ⅲ類は受地だいやまの例を除けば平塚の国府域に集中しており、従来の見解と同じく官衙遺跡に特有な集約的な生産施設と評価できる。Ⅴ類は仮設的な上屋の存在も想定されるが、類例が乏しく今後の資料の増加を待ちたい。複数の類型が国府域に混在する理由については不明であるが、官司のもとに編成された工人の出自や工程ごとに分業が行われた結果を示しているとも考えられる。

鍛冶関連遺物では、鉄滓や少量ではあるが銅滓の出土から、多彩な金属関連の操業が行われていたと言える。また、国府域以外の鍛冶関連遺物がまとまって見られる地区の存在は工房がより広範囲に広がる可能性を示している。今回の集成結果は先行研究を踏襲した内容となったが、遺構の類型化と遺物ごとの分布図を作成したことでより詳細な状況を示すことが出来た。

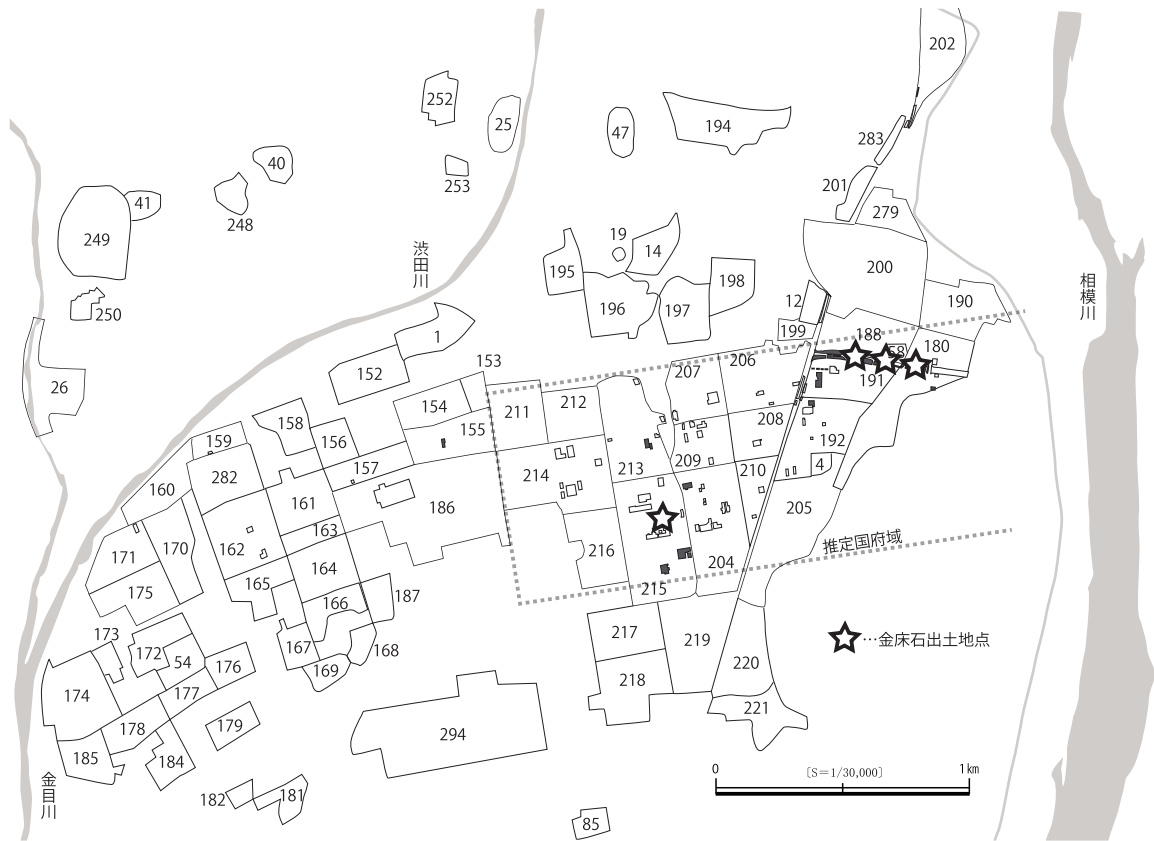


第3図 羽口分布図

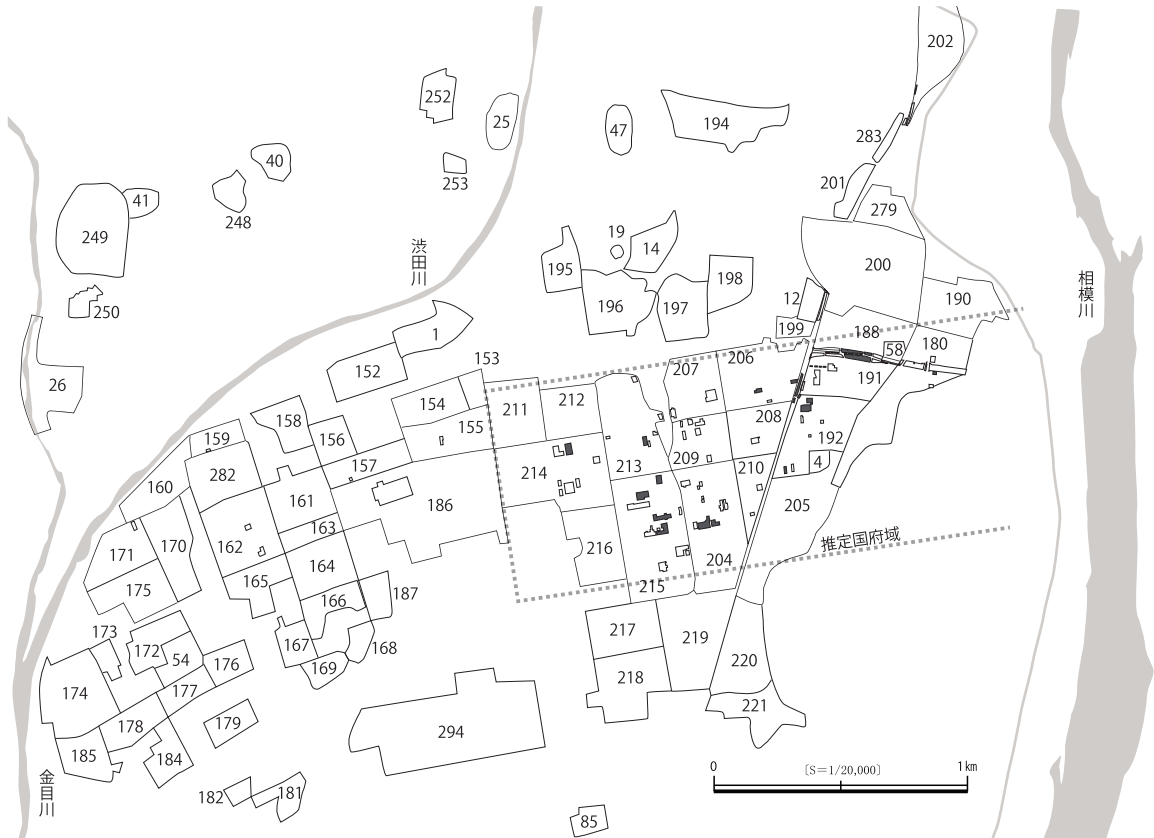


第4図 鉄滓分布図

神奈川県における古代の鉄(6)



第5図 埴埴・取瓶・金床石分布図



第6図 鍛冶工具分布図



## 『かながわの考古学』16～20 正誤表

## ●かながわの考古学 16

P57

## ・秦野市

11 羽口 草山遺跡 H 2 号竪穴住居址→H 2 号竪穴建物に訂正

P58

## ・厚木市

15 羽口 及川天台遺跡 備考欄に5点(1点図化)

16～18 羽口 及川天台遺跡 1号鍛冶炉、掲載以外に他9点あり

19～23 羽口 及川天台遺跡 2号鍛冶炉、掲載以外に他47点あり

P59

## ・逗子市

39～78 羽口 池子遺跡群 出土遺構は遺構外

P61

## ・秦野市

92～99 鉄滓 草山遺跡 備考欄にある「・他鉄滓21点中8点碗型」をトル

P62

## ・厚木市

116 鉄滓 及川天台遺跡 法量 長さ9.1 幅8.8 厚み4.5 重量338g 碗型滓に訂正

備考欄 1,250gをトル

P63

117 鉄滓 及川天台遺跡 法量 幅7.6 厚み3.1 重量194gに訂正

備考欄 1,250g→鉄滓718gに訂正

121・122 及川天台遺跡 1号鍛冶炉出土 備考に鉄滓1,174gを追加

123～125 鉄滓 及川天台遺跡 2号鍛冶炉 備考欄にその他として11,491g出土

P64

## ・逗子市

鉄滓 池子遺跡群 1号鍛冶 備考欄に2,662点27,417.8g追加 文献に『池子遺跡群VI』

鉄滓 池子遺跡群 2号鍛冶 備考欄に414点6,738.8g追加 文献に『池子遺跡群VI』

## ●かながわの考古学 17

P49

## ・平塚市

2 取瓶 四之宮山王B遺跡 備考欄 須恵器坏F12→12トル

3 取瓶 四之宮山王B遺跡 備考欄 須恵器坏F13→13トル

4と5の間 取瓶 四之宮山王B遺跡 S I 05 出土位置 覆土 法量 長さ13.0 幅4.0 厚み5.0

遺構の時期10世紀第3～4四半期 備考欄に須恵器・坏F追加

P51

79 羽口 神明久保遺跡 S I 20竪穴住居址 孔径欄 95.0トル

89 羽口 遺跡名 四之宮下郷遺跡→四ノ城遺跡に変更

下から二番目のセル

遺跡名 四之宮下郷遺跡→鹿見堂B遺跡に変更

一番下のセル

遺跡名 四之宮下郷遺跡→道半地遺跡に変更

P52

99 羽口 四之宮高林寺 S X 01 備考欄に鍛冶工房址追加

P57

六ノ城遺跡 15住 備考欄 金床石 報文のみ

## ●かながわの考古学 18

P52

6 鉄滓 神明久保遺跡 法量 厚み15.5→1.55gに変更

8 鉄滓 神明久保遺跡 S I 18→S I 08に変更

P52

22～25 鉄滓 神明久保遺跡 S D 1・S D 4・S D 5→S D 01・S D 04・S D 05

P53

33 鉄滓 構之内遺跡 遺構の時期 9世紀中葉追加

34 鉄滓 構之内遺跡 遺構の時期 9世紀後半追加



神奈川県における古代の鉄(6)

	35	鉄滓	構之内遺跡	法量 長径4.2 短径4.8 厚み1.7 重量33.0g	に変更
	37	鉄滓	構之内遺跡	ビット216→ビット125に変更	重量89.2→89.4に変更
	38	鉄滓	構之内遺跡	ビット216→ビット125に変更	
P54					
	45	銅滓	山王A遺跡	遺構の時期欄 時期不詳→9世紀中葉以降に変更	
	48	銅滓	四之宮山王B遺跡	備考に銅滓付須恵器坏片追加	
48と49の間					
			山王B遺跡	遺構外	重量 208.3→283.0に変更
	51	鉄滓	山王B遺跡	法量 短径 [2.1] → [2.6] に訂正	
P55					
上から6～21行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→六ノ城遺跡に変更		
		鉄滓	高林寺遺跡	1区-S D01→S D03に変更	
		鉄滓	高林寺遺跡	2区-S I 03 142→142.0に変更	
上から22～33行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→諏訪前A遺跡に変更		
		鉄滓	高林寺遺跡	3区-S I 12 397→397.0に変更	
P56					
		鉄滓	高林寺遺跡→諏訪前A遺跡に変更		
		鉄滓	高林寺遺跡	3区-P 30 12→12.0に変更	
		鉄滓	高林寺遺跡	4区-S I 32 35→35.0に変更	
		鉄滓	高林寺遺跡	4区-S K09 80→80.0に変更	
		鉄滓	高林寺遺跡	4区-S E01 1,211→1,211.0に変更	
P57					
上から1～10行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→諏訪前A遺跡に変更		
上から11～15行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→四ノ城遺跡に変更		
		鉄滓	高林寺遺跡	7区-S B01 36.4→3.4に変更	
上から16・17行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 通り西遺跡に変更		
上から18行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 林A遺跡に変更		
上から20～26行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 鹿見堂B遺跡に変更		
上から27行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 道半地遺跡に変更		
上から28・29行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 鹿見堂A遺跡に変更		
		鉄滓	高林寺遺跡	16区-S K02→18区-S K02	
		鉄滓	高林寺遺跡	16区-S K06→18区-S K06	
上から30・31行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 道半地遺跡に変更		
上から32・33行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 五合屋敷遺跡に変更		
P58					
上から1～6行目					
		鉄滓	高林寺遺跡→ 五合屋敷遺跡に変更		
55の下のセル					
		鉄滓	高林寺遺跡	重量109.0g→109.4g	に変更
56・57の下のセル					
		鉄滓	高林寺遺跡	遺構の時期欄 8世紀～10世紀→8世紀～11世紀に変更	
P59					
	65	鉄滓	高林寺遺跡	出土遺構 その他→S E01に変更	
上から8番目のセル					
		鉄滓	高林寺遺跡	S X01→S X01・02あわせて出土鉄滓283点21,338g、スラッグ498点4,949点に変更	
上から9番目のセル					
			高林寺遺跡	S X02	種別 銅滓→鉄滓に変更、備考781点トル
	76	鉄滓	高林寺遺跡	一覧トル	
	82	鉄滓	梶谷原A遺跡	P 184	重量 180.0→83.0g
P60					

	91	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径4.2	短径5.1	厚み3.2に変更		
	92	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径3.9	短径4.4	厚み2.4に変更		
	93	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径5.3	短径8.0	厚み3.0に変更		
	94	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径5.8	短径7.4	厚み2.3に変更		
	95	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径4.4	短径6.5	厚み2.2に変更		
	96	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径4.3	短径4.6	厚み1.6に変更		
P60									
	97	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径5.8	短径7.8	厚み3.2に変更		
	98	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径5.0	短径6.1	厚み2.3に変更		
	99	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径6.3	短径6.9	厚み2.2に変更		
	100	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径4.2	短径4.0	厚み3.8に変更		
	101	鉄滓	稲荷前B遺跡	法量	長径4.7	短径5.0	厚み3.1に変更		
	106	鉄滓	六ノ城遺跡	一覧トル					
	107	鉄滓	六ノ城遺跡	遺構の時期欄					7世紀後半～8世紀をトル
	109	鉄滓	六ノ城遺跡	NH30号住居		重量98.0g			追加
P64									
※鉄滓・六ノ城遺跡・天神前遺跡第10地区追加									
		鉄滓	六ノ城遺跡	NH1号鍛冶炉		報文のみ			33,377.9g
		鉄滓	六ノ城遺跡	NH9号住		報文のみ			
		鉄滓	六ノ城遺跡	NH26号住		報文のみ			7,303.3g
		鉄滓	六ノ城遺跡	NH27号住		報文のみ、粒状鉄滓			
		※NH4・5・13・14・22・24・28～31・33号住居から総じて20～50gの鉄滓出土している。							
	233	鉄滓	七ノ城遺跡	SK01→1号土坑に変更					
	235	鉄滓	天神前遺跡	第7地点	1号竪穴住居址	法量	長径10.5	短径9.4	厚み4.1に変更
	236	鉄滓	天神前遺跡	第7地点	1号竪穴住居址	法量	長径10.6	短径9.5	厚み5.3に変更
	237	鉄滓	天神前遺跡	第7地点	1号竪穴住居址	法量	長径10.3	短径8.5	厚み2.8に変更
		鉄滓	天神前遺跡	第10地区	1号不明遺構・1号土坑・32号溝状遺構追加				
		※概要報告の為、報文のみ							
		栗山雄揮1997『天神前遺跡第10地点発掘調査概要報告書』平塚市教育委員会							
下から7番目									
		鉄滓	天神前遺跡	3号竪穴住居址		遺構の時期			9世紀後半
下から6番目									
		鉄滓	天神前遺跡	4号竪穴住居址		遺構の時期			9世紀中葉
	242	鉄滓	天神前遺跡	SI07		重量			599.0→12.4gに変更
P65									
	255	鉄滓	山王久保遺跡	出土遺構					遺構外→第1トレンチ遺構外に変更
	262～264	銅滓	東中原E遺跡	遺構の時期					トル
P66・67									
	265～313『かながわの考古学20』に再録している為、トル								
P67									
下から2番目に追加									
		銅滓	四之宮高林寺遺跡	SK02		重量66.5g			備考欄に12点追加
・横浜市									
	315	埴埴	西ノ谷遺跡	R竪穴・鍛冶炉		法量	厚み0.6	底径3.5	追加
P68									
	316	埴埴	西ノ谷遺跡	R竪穴・鍛冶炉		法量	器高5.1	厚み1.7	底径6.5
	317	埴埴	西ノ谷遺跡	R竪穴・鍛冶炉		法量	底径6.5追加		
	319	埴埴	西ノ谷遺跡	R竪穴・鍛冶炉		法量	底径5.3追加		
	321	埴埴	西ノ谷遺跡	出土遺構にi溝追加					
	322	埴埴	西ノ谷遺跡	9-J地区		法量	底径6.7追加		
	323	埴埴	西ノ谷遺跡	9-I地区		備考欄に須恵器追加			
	324	羽口	受地だいやま遺跡	J区竪穴	鍛冶工房址	法量	長さ(8.6)	幅(7.6)	厚み3.8 孔径(2.1)に変更
	325	羽口	受地だいやま遺跡	J区竪穴	鍛冶工房址	法量	長さ(4.8)	幅(6.0)	厚み3.6 孔径(1.7)に変更
	326	羽口	受地だいやま遺跡	D区竪穴	鍛冶工房址	法量	長さ(3.8)	幅(4.0)	厚み2.0 孔径(1.6)に変更
	327	羽口	受地だいやま遺跡	D区竪穴	鍛冶工房址	法量	長さ(1.8)	幅(1.8)	厚み1.8 孔径(1.5)に変更
	328	羽口	受地だいやま遺跡	A区一括		法量	長さ(6.1)	幅(6.7)	厚み4.0 孔径(1.8)に変更
	329	羽口	受地だいやま遺跡	D区一括		法量	長さ(7.7)	幅(8.0)	厚み2.8 孔径(2.4)に変更
	330	羽口	上郷深田遺跡	出土遺構					1号北側柱孔状ピット→1号炉北側柱穴状ピットに変更
	333	羽口	西ノ谷遺跡	R竪穴		出土位置に床面追加			
	334	羽口	西ノ谷遺跡	R竪穴		出土位置に床面追加			

神奈川県における古代の鉄(6)

P69

338 羽口 西ノ谷遺跡 10-I (溝N) 法量 長さ8.6 幅7.5 孔径2.6追加  
備考欄に被熱追加

・川崎市

P69

340 羽口 大ヶ谷戸遺跡 2号竪穴住居址 法量 長さ(2.7) 幅(6.5) 厚み2.1追加  
鉄滓・銅滓の表ひながた部分の重要に(g)追加  
上から12番目のセル

上郷深田遺跡 種別部分 鉄滓→鉾滓に変更  
341 鉄滓 西ノ谷遺跡 9-K 重量554.0→554.4gに変更  
備考欄に梔型滓

上から15番目のセル

笠間中央公園遺跡 1号鍛冶遺構 種別部分鉄滓→鉄塊に変更  
法量 長径6.5 短径3.5 厚み3.0 重量75.9g追加  
遺構時期 8世紀代トル  
備考欄 本文記載のみ→委託分析記載のみ

上から16番目のセル

笠間中央公園遺跡 17号住居址 備考欄 本文記載のみ→写真のみ

上から17番目のセル

笠間中央公園遺跡 26号住居址 備考欄 本文記載のみ→写真のみ

上から18番目のセル

笠間中央公園遺跡 39号住居址 法量 長径4.5 短径2.5 厚み1.5 重量19.0g追加  
備考欄 本文記載のみ→委託分析記載のみ

上から19番目のセル

笠間中央公園遺跡 43号住居址 備考欄 本文記載のみ→写真のみ

鉄滓追加 笠間中央公園遺跡 1号鍛冶炉 法量 長径5.5 短径4.5 厚み2.0 重量63.9g追加

鉄滓追加 笠間中央公園遺跡 6号溝・遺構外 法量 長径4.0 短径4.5 厚み1.7 重量61.8g追加 梔型滓

342 鉄滓 北川表の上遺跡 56号住 法量 長径5.1 短径5.6 厚み2.8 重量88.7gに変更

343 鉄滓 北川表の上遺跡 56号住 法量 長径3.9 短径2.8 厚み2.1 重量39.8gに変更

P70

344 鉄滓 北川表の上遺跡 56号住 法量 短径3.3 厚み1.3 重量35.2gに変更

345 鉄滓 北川表の上遺跡 56号住 法量 長径5.5 短径6.5 厚み2.9 重量123.2gに変更

鉄滓・銅滓の表ひながた部分の重要に(g)追加

・川崎市

346 鉄滓 上麻生日光台遺跡 S I 10 法量 長さ6.8→6.75に変更  
備考欄に梔型滓追加  
347 鉄滓 上麻生日光台遺跡 S B 06 備考欄に梔型滓追加  
348 鉄滓 上麻生日光台遺跡 S F 01 出土位置欄に埋積土中追加  
鉄滓 上麻生日光台遺跡 H 2 号住居 備考欄 写真のみ掲載は1点追加

・横浜市

352・353・355

鋳型 上郷深田遺跡 遺構時期欄 9世紀前半代 トル

●かながわの考古学 19

P49

【鍛冶遺構】→【製鉄・鍛冶関連遺構】に変更

P50

9 鍛冶 六ノ城遺跡 NH 1 鍛冶炉 出土遺物に鍛造剥片、梔型滓、粒状滓追加  
遺構 ※2・3号鍛冶炉もあったが、壊されている記載を追加

P51

14 鍛冶 天神前遺跡 1号竪穴住居址 南北2.3m→2.9mに変更  
遺構 第7地点

15 鍛冶 天神前遺跡 1号不明遺構 出土遺物に鉄滓追加  
遺構 第7地点

天神前遺跡 6～9号竪穴住居址 出土遺物トル。遺跡全体から多量の羽口、鉄滓出土に変更  
第10地点

16 鍛冶 高林遺跡第7地点 S X 01鍛冶工房址 出土遺物に鉄滓、羽口追加  
遺構

P52

20	鍛冶遺構	池子遺跡群 No. 5 地点	1 号野鍛冶炉	出土遺物に鉄滓追加
21	鍛冶遺構	池子遺跡群 No. 5 地点	2 号野鍛冶炉	出土遺物に鉄滓追加

P53

24	鍛冶遺構	受地だいやま遺跡 受地だいやま遺跡	J 区テラス状遺構 D 区鍛冶関連第 1 号土坑	出土遺物に有足鍋脚部・土製品追加 開口部約2.9×2.6m 深さ100～20cm 追加
		受地だいやま遺跡	D 区鍛冶関連第 2 号土坑	開口部2.4×2.3m 深さ50～15cm 追加
		受地だいやま遺跡	D 区鍛冶関連第 3 号土坑	開口部90×80cm 深さ35～25cm 追加

P54

25	鍛冶遺構	上谷本第二遺跡	B-1 地区 1 号遺跡→B-1 地区 1 号遺構に訂正	
----	------	---------	------------------------------	--

P55

40	鍛冶遺構	北川貝塚	楕円径→楕円形に訂正 9～10世紀→10世紀代に訂正	
41	鍛冶遺構	笠間中央公園遺跡	1 号鍛冶遺構 17・26・43号住居址→鍛冶に関する遺構の記述なしの為削除	8 世紀代→トル
43	鍛冶遺構	権田原遺跡	9～10世紀→トル	

下から 4 行目

笠間中央公園遺跡	17・26・39・43号住居址	トル
----------	-----------------	----

●かながわの考古学 20

P65

260	鉄塊	向原遺跡	199号堅穴住居址	覆土下層	法量	長さ3.5	幅2.5	厚み0.4～0.7に変更
261	鉄塊	向原遺跡	199号堅穴住居址	覆土	法量	長さ1.8	幅1.4	厚み0.9に変更
262	鉄塊	向原遺跡	199号堅穴住居址	覆土	法量	長さ2.8	幅1.4	厚み0.4に変更
263	鉄塊	向原遺跡	199号堅穴住居址	覆土追加				

※遺構の時期は10世紀前半～中頃

【参考文献】

- 齊藤真一 2010『よみがえる古代東国の鉄文化』「相模国・南武蔵の鉄生産と鉄器の流通」東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー発表資料
- 富永樹之 2004「神奈川における古代集落・官衙・寺の鍛冶―神奈川の古代製鉄・鍛冶遺構―」考古論叢神奈河 第12集
- 平野卓治 2006「横浜市の古代製鉄関連遺構」横浜市歴史博物館調査研究報告 第2号
- 松崎元樹 2006「南武蔵の古代鍛冶関連遺跡と鉄器生産」武蔵野 第82巻第2号
- 安間拓己 1995「古代の鍛冶炉―その形態および鍛冶工程との関連について―」考古学研究 第42巻第2号
- 2000「古代の鍛冶遺跡」製鉄史論文集たたら研究会創立四〇周年記念

※本文の執筆は川嶋実佳子・相良英樹・諏訪間直子・西田真由子が、全体の編集は相良英樹が担当した。第2図は川嶋、諏訪間が、第1・3～6図は相良が、正誤表は高橋香が作成した。正誤表作成に際し、各報告書への確認作業は奈良・平安時代研究プロジェクトチーム各員が行った。第2図は1/120で掲載した。

<sup>1</sup> 製鉄遺構については、従来からその存在が知られている上郷深田遺跡以外に比較となる新たな資料の報告はない。このため今回の分類対象からは除外した。遺構図についても同様の理由から割愛する（紀要19、P47の第5図を参照）。